

研究室紹介

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 野菜研究所 病虫部

青森県産業技術センターは、平成21年4月に、それまで青森県が設置していた工業系と農林水産系などの公設試験研究機関を統合し、県内唯一の地方独立行政法人の研究機関として発足しました。

青森県は、全国一の出荷量を誇るにんにく、ごぼうをはじめとして、ながいも、だいこん、にんじん等、出荷量が全国の10位以内に入る品目が10品目以上もある東北一の野菜産地です。

野菜研究所は、本県野菜の中心産地である上北地方に立地し、本県野菜研究の拠点として、特産野菜のにんにく、ながいも等を対象に、栽培技術や病害虫防除の研究と指導、優良品種開発のほか、にんにく、ながいものウイルスフリー種苗を増殖し、全農あおもりやJAの行う優良種苗の確保を支援しています。

病虫部は、病害担当2名、虫害担当2名（うち1名は主に線虫担当）、研究補助員2名の総勢6名からなり、日々研究業務に取り組んでいます。以下に主な最近の研究内容を紹介します。

「ニンニクのイモグサレセンチュウの防除対策」

イモグサレセンチュウは収穫後のニンニクに腐敗を引き起こす重要線虫です。発生圃場では作付けしないことが基本ですが、やむを得ず作付けする場合は、マルチ畦内処理による土壌くん蒸消毒と処理前の深耕を組合せると被害低減効果が高いことを明らかにしています。これらの対策を行ったうえで線虫が内部まで侵入する前に早期収穫する必要があると併用する技術として、被害軽減できる収穫時期を判定する方法の開発に取り組んでいます。また、土壌消毒によらない技術として、田畑輪換や



ニンニクのイモグサレセンチュウ被害とニンニク調査風景



ナガイモ根腐病

他野菜等との輪作の被害低減効果についても検討しています。

「ナガイモの土壌病害の防除対策」

連作により発生が増加する根腐病に対して安定した防除効果の得られるクロルピクリンによる土壌消毒が行われていますが、健康への影響や環境負荷の低減を求める情勢に対応するため、生物くん蒸作物やガス難透過性資材を利用したクロルピクリン低減技術を検討してきました。次年度からは緑肥作物などを取り入れた輪作による土壌病害低減技術について検討を始めることにしています。

「ダイコンのキスジノミハムシに対する防除対策」

播種時の粒剤の効果的な処理方法や粒剤と茎葉散布を組合せた効果的な防除体系について検討しています。

以上の課題以外にも、ドローンを活用したナガイモの薬剤散布の検討や、新農薬実用化試験、必要に応じて病害虫の診断も行っています。また、研修講師の依頼や、県や農協等からの研究要望、生産者や普及指導員、農協の営農指導員等からの問い合わせも多く、生産現場に密着した研究機関として、これからも貢献できるよう努めていきたいと思えます。

(病虫部長 新藤潤一)